ウスマ ン ブン アッファ ン（2/2）

：

明:第3代目正 カリフによる くべき生活、そして行 。

目: 事 言者ムハンマド彼の教友たちの物

より: ア イシャ

日:17 Jun 2013

集日:17 Jun 2013

ウスマ ン ブン アッファ[1] ン

は 言者（神の慈悲と祝福あれ）に でられていたことから、「二つの光の保持者」と呼ばれていました。ウスマ ンは 言者の娘ルカイヤと 婚し、彼女が亡くなった にはもう一人の娘ウンム クルス ムと 婚したことから、二つの光を持つ者となりました。

ウスマ ン ブン アッファ ンは慎重な と熟考がなされた末、カリフ（ムスリム国家の指 者）として任命されました。ウマルは の 、新たな指 者を ぶための6人からなる 会を 成させました。当 はムスリムたちの に混乱と 秩序が蔓延っており、小さな不一致が大きな障害となっていました。一方では、 言者の家族であるアリ ブン アビ タ リブの就任が求められており、また一方ではマッカの一大 力の出身であるウスマ ンの就任が求められていました。14世 の 大なイスラ ム学者、イブン カスィ ルは、 会の を めたアブドッラフマン ブン アウフが候 者の双方を面接した 果、ウスマ ンが ばれたことに言及しています。

アブドッラフマ ンはアリ に、こう ねています。「あなたは なる神の （クルア ン）と、その使徒のスンナ（ ）に基づいた 治をすると誓いますか? 」彼はこう答えました。「私は自らの知 と能力を尽くし、それに基づくことを望んでいる。」そしてアブドッラフマ ンはウスマ ンにも同じ をしたとき、彼は分かりやすくこう答えました。「誓います。」このやりとりによって 果が められたのではなく、 には、これは と熟考の 程の一部でした。いずれの候 者も、ムスリム国家を指 することの出来る候 者たちの内の有力な二人でした。ウスマ ンは敬虔さ、 大さ、 虚さによって知られ、彼の な答えはその性格を反映させたものだったのかも知れません。彼はあまり自分から をしない羞 心に ちた男性でしたが、彼の心は神とその使徒への 情に溢れていました。

カリフ に 出された直 、ウスマ ン ブン アッファ ンは 言者ムハンマドによって礼 が先 されていた 所（ミンバル）から人々に演 しました。彼はムスリムたちを 渡し、神を え、 言者ムハンマドに祝福を送ってから、この世界は欺 に ちていることを人々に思い起こさせました。彼は人々に、 な暮らしを忌避し、至福と平安に ちた来世こそを求めるよう忠言しました。

“??”??????18?45?46?

ウスマ ンは神を し、完全に信 しきった敬虔な男であったため、彼の指 者としての最初の行 は、人々が彼によって 言者、そしてアブ バクル、ウマル ブン アル＝ハッタ ブの先代カリフたちの道にきちんと かれることを保 することでした。ウスマ ンがムスリムの指 者となったのは彼が70 近くになってからで、彼は 年にわたり、神へのお近づきを求めて 世での享 を慎んでいました。ウスマ ンは人々への 心を示し、世 を いただけではなく、司令官として、 督 ムスリム を指 しました。

ウスマ ンは 督に し、人々に尽くすこと、そして して彼らから 取してはならないことを表明しました。彼は支配地へ、 言者ムハンマドの著名な教友たちを自らの代行として遣わし、 地での要 たちの素行と人々の状 を 密に べさせました。ウスマ ンは に し、ウマル ブン アル＝ハッタ ブによって定められた明 なガイドラインに い、彼らの任 は信仰者たちの防 であるということを、 して忘れないよう注意しました。ウスマ ンの 治 代には

大幅な 土 大が行われ、そこにはスペインの一部、モロッコ、そしてアフガニスタンまでもが含まれました。またウスマ ンは海 を　した最初のカリフでもありました。彼はカリフ における行政上の区分を再 成し、 大させ、多くの公的事 に着手しました。しかし、ウスマ ンによるムスリムに しての最も 大な 献は、クルア ン写本の 修でしょう。

ウスマ ン版クルア ン写本

言者ムハンマドの死 、正 カリフ 代になると、何十万人もの非アラブ人がイスラ ムへと入信しました。それにより、 々な方言や 体によってクルア ンが朗　　されるようになりました。 言者ムハンマドの教友たちと、ウスマ ンの友人フザイファはムスリム 内における旅中で、 数の なるクルア ンの朗 法があることに 付きました。フザイファはマディ ナにあるものと同じ正式なクルア ン写本を作ることをウスマ ンに提言しました。

ウスマ ンはクルア ンを暗 しており、それぞれの の背景や文 といった　について熟知していました。クルア ン写本はアブ　バクルの 代に 集され、 言者ムハンマドの妻ハフサによって保管されていました。ウスマ ンはその 本を入手し、最も信 のおける教友たちにそれらを き写すよう命じました。それから彼はすべての非公式な写本を 却 破 するよう命じたのです。公式な5 がイスラ ム 土の5つの都市に配布され、それらは 在もウズベキスタンのタシケントと、トルコのイスタンブ ルにあるトプカピ 殿博物 に展示されています。

悲 の 末

ウスマ ンの 治における最 の6年 は、反乱に ちたものでした。ウスマ ンの 代に任命された督たちの一部は高 的で、不正を行っていました。こうした中で不和の火 が 散し、多くの人々はウスマ ンが警告していた、 世における裕福な暮らしを するようになったのです。策 は 著となり、ウスマ ンは味方と を区 することが困 となりました。彼はいかに反逆的であろうと、ムスリムの血を流すことを 躇いました。ウスマ ンは次の 言者ムハンマドの言 を して忘れることがなかったため、 しさと 大な心をもって追求することを望んだのです。

「私の追 者たちの で一度 が引き かれたとき、それは 判の日まで鞘に められることはないであろう。」

反逆者たちはウスマ ンの辞任を要求し、 に教友たちも彼にそれを促しました。すでに80 を超えていたウスマ ンは彼の敬 した 言者ムハンマドの言 を思い起こし、辞任を拒否しました。
「ウスマ ンよ、神はおそらくあなたに衣服をお着せになるだろうが、もし人々があなたからそれを剥ぎ取ろうとしても、彼らのためにそれを渡してはならない。」
ウスマ ンは自らの 束を守りぬきましたが、 期に渡る包 の末、反逆者たちは彼の家に突入し、彼を 害しました。暗 者の刃物が彼を ったとき、ウスマ ンは次の を朗 していました。

“??????????????????????????????????????”???????2?137?

これが、イスラ ムにおいて最も敬虔、 切で 私 欲として知られた一人の男の悲 の最 だったのです。

Footnotes:

1 イブン カスィ ルの著作「正 カリフ 」に基づいています。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/2198

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。